
公開シンポジウム報告書の刊行に寄せて

中国経営管理学会と愛知大学国際中国学研究センター（以下、ICCS と略す）は、2006年5月20日に愛知大学車道校舎で公開シンポジウムを成功裏に開催しました。今回のシンポジウムを開催するにあたり、いくつかの新しい試みがありました。

まず、中国経営管理学会を主催としながらも、主催校の愛知大学が推進している文科省21世紀COEプログラム・ICCS「現代中国経済とアジア経済圏形成研究会」（以下、経済研究会と略す）との共催という形でシンポジウムを開催しました。川井伸一・中国経営管理学会会長が冒頭の趣旨説明で紹介したように、シンポジウムの統一テーマを選定する際に、ICCS 経済研究会が積み重ねてきた調査研究の蓄積を活かして、最終的に「中国企業の海外進出と国際経営」に選びました。ICCS 経済研究会のメンバーたちは、日本国内のみならず、中国や米国など海外からも駆けつけて、シンポジウムでの研究発表や討論に積極的に参加しました。このように、学会と主催校が一体となって、ハードウェアとソフトウェアの両面において大会の成功を支えました。

中国経営管理学会第7回研究大会の統一論題にもあたる今回のシンポジウムは、学会の会員だけでなく、一般市民や学生、研究者、企業関係者も参加できる公開シンポジウムとして開催されました。事務局の集計によると、20日の公開シンポジウムには約160名、21日の自由論題にも約100名の参加者を得たとのこと。そのうち、企業関係者の参加は全体の約3分の1を占めています。事後の話によれば、数社の企業の部長たちは研究者の発表を聞いた後に、わざわざ発表者の研究室を訪ね、さらに詳しくヒアリングを続けるなど、会議後の交流も続いたそうです。産学連携が提唱されているなかで、産業界との協力関係は今後さらなる発展が望まれるところです。

このように、産業界からの積極的な参加を得た背景には、後援団体である東海日中貿易センターのご協力をめきにして語れません。同センターは2回にわたりその会誌に公開シンポジウムの広告を掲載し、さらにメーリングリストなど電子媒体を用いて会員企業に広く案内していただきました。同じく後援団体の愛知大学同窓会にも各支部にシンポジウムの案内を送り、幅広く参加を呼びかけていただきました。また、愛知県下の各商工会議所や東海地方の主要な大学にも公開シンポジウムの案内の掲示や配布など力強いご協力をいただきました。ここでは協力者のお名前を全部挙げることはできませんが、この場を借りて深く御礼を申し上げます。

最後に、公開シンポジウムの成功を支えてくださったパネリストの諸先生方に心から感謝申し上げます。ご多忙中にもかかわらず、窮屈な日程のなかで、シンポジウム開催前の各種の準備やシンポジウム後の原稿の校正など忍耐強くご協力をいただきました。皆様のお蔭で、シンポジウム本番の知的交流の緊張感をこのように形に留めることができました。それが、この新しくて奥深いテーマに関する研究の更なる深化のための誘い水になればと願ってやみません。

中国経営管理学会第7回研究大会実行委員会委員長
愛知大学国際中国学研究センター事業推進委員

李 春利